

教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

有田市立初島小学校
教諭 上田 敏 樹

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教職員としての資質能力を高め、その成果を本県教育の充実に生かすことを目的とされている。言うまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理を明らかにすること」であり、修養とは「知識を高め品性を磨き、自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第2版』2012, 小学館)とある。

今回、長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と、教員としての資質を広く高める修養の機会(下図参照)」として捉え、1年間研鑽を積むこととなった。研修中は、センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講、所属校における学校課題解決のための校内研修参加等を通して、幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

研究は、これまでの実践をふり返り、課題を見据えたうえで、評価規準の明確化による単元構想及び指導の工夫について追究した。その結果、「単元構想シート」の作成と、「指導過程5段階モデル」による授業づくりを通して、一定の成果を上げることができた。

修養は、研修講座や各種トレーニング研修を通して、これまでの自身の教師生活を省察するところから始めた。授業力向上トレーニングでは、教材分析や教材研究についての新たな知識やスキルを吸収でき、授業改善に向けて取り組む姿勢を得ることができた。そして、仲間との協働を通して、学び続けることを体現することができたように思う。組織開発力向上トレーニングでは、「ミドルリーダー」の捉え方に変化が生まれた。これまで中堅教員として、30代では全体を牽引する役割を、40代では若手をサポートする役割を意識し、行動してきた。しかし、研修を通して、「自他を生かせる組織」にすることが学校の教育力を向上させるという考えを得た。目標に向かい、チームで動くこと、個人の役割、サポートに込められた意味、学びの丘で見聞きした多くのことを通して、新たな方向性を見出すことができた。

この1年、自身が学ぶ、関わり方を学ぶという2つの視点を持ち続けた。そして、人との関わりの中で課題を発見し、協働して解決し、学校の教育力を高めるということに気付いた。今後は、常に学び続ける教師集団の中で、その中核となるミドルリーダーとしての役割を常に意識し、この1年で得た事柄を胸に、省察することを忘れず、所属校や所属地域の教育力の向上に向かって邁進していきたいと思う。

なお、自己の専門性を向上させるために、年間を通して行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

| 段階 | 第1段階 基礎期 | 第2段階 向上期 | 第3段階 探究期 | 第4段階 充実期 | 第5段階 修了期 |
|----|--------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-----------------|---------------------------------|
| 月 | 4月～5月 | 6月～8月 | 9月～11月 | 12月～1月 | 2月～3月 |
| 研究 | ・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表 | ・所属校での授業研究に向けた単元計画、資料等作成、模擬授業 | ・授業研究計画を第2回報告会で発表 ・授業研究の実施 | ・授業研究で収集したデータ分析 | ・和歌山教育実践研究大会で発表 ・研究報告書、資料の作成 |

| | |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」 | |
| 修養 | <ul style="list-style-type: none"> ■「授業力」「学校組織開発力」「校内研修運営力」向上トレーニング ■専門性の向上を目指す専門研修講座等受講 ■初任者研修、10年経験者研修聴講 ■学びの丘指導主事等による研修員研修 |

図 研修の概要